

川口子ども守り隊（秋田県）

秋田県大館市川口子ども守り隊隊長をしております、小林重信と申します。野村裕子と申します。よろしくお願いたします。

本日は、北海道・東北ブロック防犯ボランティアフォーラムにおいての発表の機会を頂きました。ありがとうございます。私たちの団体が行っている活動について、御紹介させていただきます。



活動地域の紹介

- 大館市は、秋田県北部を流れる米代川と長木川の清流沿いに開けた盆地
- 人口は約7万人で、北境は青森県と接する
- 「忠犬ハチ公」のふるさと
- 郷土料理「きりたんぼ」
- 伝統工芸品「大館まげわっぱ」
- 活動地域は、大館市の中心から西方に位置する下川沿地区
(世帯数約2,200世帯、人口約4,850人)

はじめに、活動地域についてお話をいたします。私たちが活動している地域は、秋田県の北部に位置します大館市となっております。大館市は、県北部を流れる米代川と長木川の清流沿いに開けた大館盆地にあります。市の人口は約70,000人で、北境は青森県と接してございます。忠犬ハチ公の故郷としても知られており、秋田犬保存会の本部もございませ。最近のことでは、冬季オリンピック女子フィギュアスケートで金メダリストのザギトワ選手に、秋田犬を贈ったことが話題になりました。郷土料理では、皆さん御存じだと思います。きりたんぼが全国的に有名です。これは御飯を潰して楯に巻き付け焼いたものを切って鶏鍋に入れたきりたんぼ鍋がよく知られてございませ。その他、秋田杉を使った伝統工芸品の大館まげわっぱなども、有名でございませ。

私たちの団体が活動しているのは、大館市の中心部から西のほうに位置いたします下川沿地区と申します。世帯数が約2,200世帯、人口約4,850人が暮らしてございませ静かな農業地帯です。活動の拠点は、児童86人が通学する大館市立川口小学校でございませ。

次に私たちの団体の概要についてお話をします。結成年月日は平成17年7月15日でございませ。結成の経緯ですが、地域住民自らの手で子供たちの安全対策、犯罪被害防止を図ることを目的として発足いたしました。その後、私たちの活動地域の近くで発生した児童連続殺害事件を受けて、子ども見守り活動の必要性が高まってまいりました。

御存じの方もいらっしゃると思いますが、小学生

団体の概要

結成の経緯	地域住民自らの手で子どもたちの安全対策・犯罪被害防止を図ることを目的に発足
結成年月日	平成17年7月15日
結成の経緯	平成18年、秋田県山本郡藤里町の児童殺害事件の発生を受けて、子ども見守り活動の必要性が高まる
結成の経緯	大館市立川口小学校からも見守り強化の依頼
○ 構成員	隊員16人、平均年齢65歳
○ 地域安全安心ステーション事業	平成20年度、警察庁「地域安全安心ステーション事業」の団体に選定



の女子児童1名と男子児童1名が殺害された悲しい事件です。事件の発生場所は、私たちの大館市と同じく県北部の地域で、そのような事件が発生するとは思えない、のどかで自然豊かな地域でございます。身近な場所で児童が殺害される凶悪事件が発生し、いつ自分たちの身の周りで発生してもおかしくないと認識されました。実際、事件の発生を受けて当時の川口小学校の校長先生からも見守り活動の強化を依頼され、この事件をきっかけに隊の活動も活性化していくことになりました。

隊員の構成等についてお話しします。川口小学校学区の地域住民を中心に、町内会、PTA、防犯協会、交通安全協会の関係者の方々などで構成されております。現在の隊員は16人でございます。子供見守り活動を主な活動としており、青色防犯パトロール車も4台活用しながら、防犯活動を推進してございます。平成20年度には、警察庁地域安全安心ステーション事業の団体に選定されました。

活 動 内 容		活 動 内 容	
<p>登下校時の子ども見守り活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 随時、隊員が登下校時の見守りを実施 ○ 団体としての活動日を設け、毎月第2、第4木曜日は、「下校指導の日」として見守り活動を強化 		<p>青色防犯パトロール活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 警察署長からの委嘱 大館警察署長から地域安全パトロール活動団体として委嘱を受け、青色防犯パトロールを実施 	
<p>通学路点検等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月第1月曜日は、学校教員、駐在所員と連携し、通学路の危険箇所の把握等を目的にパトロール ○ 夏休み、冬休み期間における学区内の巡視活動を実施 		<p>「子供110番の家」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「子供110番の家」ボランティアとも良好な関係を構築 ○ 相互に情報共有しながら活動している 	

次に活動内容についてお話しします。1つ目は登下校時の見守り活動です。私たちの団体の主な活動は、子供を見守る活動であります。随時隊員が登下校の見守り活動を行っております。さらに、団体としての活動日を設けております。毎月第2第4木曜日は下校指導の日として、見守り活動を強化しております。見守りに当たっては、挨拶等を含め積極的に声掛けをし、子供の安全を見守りながら、体調が悪そうな子はいないのか、何か悩んでいそうな子供はいないのかなどについても、気に留めるようにいたしております。時には話を聞いてあげたり、必要があるときは保護者や学校とも連携して対応してございます。

2つ目は、通学路の点検等でございます。こちらは月1回団体の活動日を設けており、毎月第1月曜日に学校教員、大館警察署川口駐在所員と連携し、通学路の危険箇所の把握等のために、合同で通学路のパトロールを行ってございます。合同でパトロールすることで、警察、学校との情報共有がスムーズになる他、警察官と一緒に回ることで、隊員の交通事故等の防止にもなります。その他、夏休み冬休み等の長期休校時期には、学区内の巡視活動も行っております。

3つ目は、青色防犯パトロール活動でございます。大館警察署長から地域安全パトロール活動団体としての委嘱を受け、平成20年から青色防犯パトロール活動を実施してございます。現在4台が活動してございます。実際にやってみると、青色回転灯は暗くなってくると特に目立ちますので、犯罪者に対する犯罪抑止効果につながると思っております。また青色回転灯を点灯することで、地域住民にパトロールをしていることを知らせることができ、安心感にもつながっているのではないかと考えてございます。防犯のためには、やはり見守り活動をしている姿を見せることが大切だと考えております。日々のパトロールに取り組んでおります。

4つ目は、子供110番の家との連携でございます。隊の活動当初は、私共の活動に対する地域住民の関心も低く、なかなか活動が浸透しない状況もありました。ですが、人の目を引く守り隊の格好で地道な活動を継続する中で、児童等と挨拶を交わしたり、住民からの相談を受けることなどしているうちに、徐々に活動が定着していきました。ですから、今では子供110番の家の方々ともお互いに顔見知りになり、良好な関係を構築してございます。通学路沿いのお店などにも気軽に立ち寄って挨拶を交わし、子供たちの様子も伺うことができます。必要なことがあれば、すぐお願い事が出来る関係にあります。良好な人間関係を基盤として、お互いに情報を共有しながら活動することができております。現在学区内に29軒をお願いをしております。

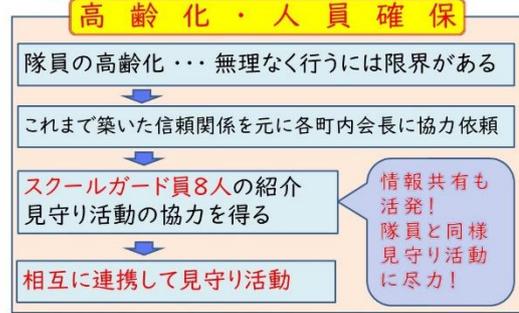
5つ目は学校、警察との連携ということで、各種行事、キャンペーン等への参加、情報共有を行ってございます。一部写真を掲示してございますが、上の2枚は、川口小子ども守り隊活動開始式の一場面でございます。毎年学校において活動開始式を行い、大館警察署による研修会や隊員の情報交換や、児童との顔合わせ等々を行ってございます。日頃の見守り活動のほか、学校行事に隊員が招待されることもたびたびございます。教職員、保護者だけでなく、児童との顔合わせなどもすることで、親しく頼もしい存在となるように努めてございます。下の2枚は警察等々と連携したキャンペーンの写真で、子供見守り活動はもちろんのこと、防犯チラシの配布やゾーン30の交通キャンペーンなどで、警察と連携した各種キャンペーンにも積極的に取り組んでおります。



団体の課題

- 構成員の高齢化
- 活動人員の確保
- 後継者の育成
- 活動資金の確保

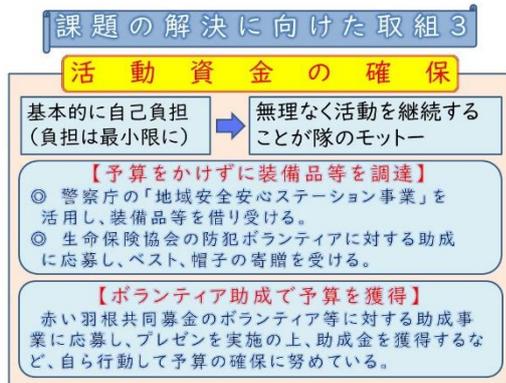
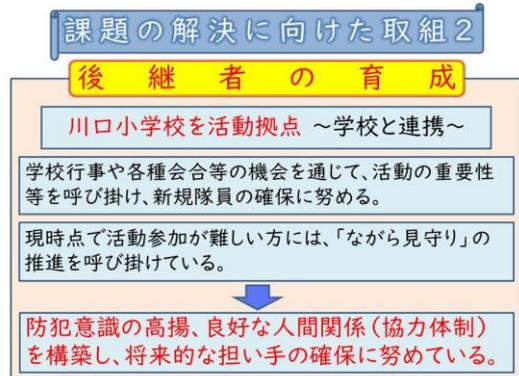
課題の解決に向けた取組



次に、団体の課題と課題の解決に向けた取組をお話いたします。まず、団体の課題ですが、構成員の高齢化、活動人員の確保、後継者の育成、活動資金の確保等々でございます。課題の解決に向けての取組として、高齢化、活動人員の確保についてお話をいたします。今年度の川口小子ども守り隊員の平均年齢は、65歳となっております。今の時代65歳はまだまだ若いんですが、しかしこれは学校を活動拠点としているため、学校関係者の、あるいは一部の若い隊員が平均年齢を下げているもので、日頃から中心となって活動している多くの隊員は高齢であり、隊員の力だけで無理なく活動するには限度がございます。かく言う私はもう84歳でございます。そこで、私はこれまで築いた信頼関係を元に、学区内の各町内会長に協力を依頼することにいたしました。具体的には各町内会長に呼びかけ、それぞれの町内から子供の見守り活動に従事するスクールガー

ド員を紹介してもらうことにしました。その結果、毎年隊員とは別に、スクールガードの協力を得ており、今年度は合計8人のスクールガードが集まりました。スクールガードは、活動を私ども隊員と共にするのではなく、地区でながら活動をお願いしております。お互いに連携して見守り活動を行うことで、隊員の負担軽減につながってございます。情報共有も活発で、意外にもスクールガード員から、危険箇所の情報提供を受けることが数多くあります。また先ほどもお話ししましたが、子供110番の家の方々とも、定期的な情報共有を行ってございます。地域が一体となって防犯活動に当たることで、人員不足を補っております。

次に、後継者の育成についてお話をいたします。高齢化が進む秋田において、若手隊員の確保も難しい中、後継者を育成していくことは難しい課題でございます。私どもの団体は川口小学校を活動拠点としておりますので、学校行事や各種会合等々、保護者、地域住民が集まる機会をとらえて、新たに隊員の募集に努めてございます。具体的には、見守り活動の重要性や無理のない持続可能な活動の浸透を呼びかけ、まずは地域防犯、子供の安全対策に興味を持ってもらうようにいたします。そして、活動に賛同していただいた方を隊員として迎え入れております。また、現時点の活動参加は難しいという方に対しては、ながら見守りの推進を呼びかけるなど、防犯意識の高揚を図ってございます。少しでも多くの人に、防犯への関心を持ってもらうことで、今すぐは難しくても将来的な協力体制、担い手の確保、そして後継者の育成へとつながるよう努めてございます。



続いて、活動資金確保についてお話をいたします。活動に伴う費用は、基本的に隊員の善意による自己負担となります。ただ、無理なく活動を継続することが隊のモットーであるため、自己負担は最低限のガソリン代程度にとどめるようにとお願いしてございます。そのため、活動に必要な装備品等、警察署、地域安全安心ステーション事業を利用して借り受けて、活用させていただいております。その他、生命保険協会の防犯ボランティアに対する助成を利用するなどして、ウェアや帽子等を確保してございます。また、赤い羽根共同募金のボランティア等に対する助成事業に応募して予算を獲得し、必要な物品の購入や防犯看板の設置費用に充てるなどしております。赤い羽根ボランティア助成は、応募すれば助成を受けられるものではなくて、プレゼンテーションが必要になってきます。また構成員の中に、児童委員、民生委員の方もいらっしゃいますので、その会の活動

資金にも活用させていただいてございます。自分たちが行っている活動や助成を受ける目的等としてしっかり伝え、無事予算を獲得することができております。大事なことは、いかに予算をかけずに効果的に活動するか、自分から行動工夫して予算を確保することであると思っております。

表示している写真は、先ほどお話しました防犯看板の土台を作成している状況でございます。限られた予算でありますので、看板を1枚でも多くの場所に設定出来るよう、土台は自分たちで制作しました。そして文字入れを業者をお願いすることで、倍の枚数を作ることができました。自分たちで出来ることは自分たちの手で行い、資金不足を補いつつ多くの場所に看板を設置し、隊の活動が地域に浸透するように努めております。看板1枚が隊員1人と、そういう思いで活動しております。現在、学区内に38枚立てられております。そして、ただいま修理中が4枚でございます。

以上のとおり課題もありますが、地域が一体となって防犯活動に取り組み、足りない部分を補いながら、無理なく活動を継続しております。団体の活動目的は、子供の安全を確保し犯罪、被害防止等を図ることでございます。これからの社会を担っていく子供たちが、悲惨な事故、事件等に巻き込まれることのないよう、今後も活動を継続してまいりたいと思っております。

発表内容は以上になりますが、最後のスライドを御覧いただきたいと思っております。川口小子ども守り隊の活動中の看板に書かれた標語は、隊の活動を始めるときに私が考えたものですが、このような気持ちで子供たちを見守っていきたいと考えております。

「いつでもどこでもどこからか 子供を見守る笑顔が嬉し
顔が嬉し」終わります。ありがとうございます。



講評【東北大学大学院 文学研究科 准教授 荒井 崇史 氏】

荒井 丁寧な説明ありがとうございました。大変興味深く拝見させていただきました。コメントとして、定点での見守り活動と広域での青パトを組み合わせ、大変上手に活動されているなという印象を持ちました。見守りの目がたくさんあったほうが安全なのは、いろんなところで言われていることですし、きっと効果のあることなんだろうなというふうに思います。それから、学校とか警察機関とか子供110番の家のボランティアの方々と、良好な関係を構築できているということもとてもいいなと思いつつ聞いていました。やはり、活動団体1つだけで活動しようとするとなかなか負担が大きくなって大変だと思うので、何かどこか1か所ということではなくいろんな機関と連携して活動されると、負担も減りますしいろんなメリットもあるんじゃないかなと思いました。

それから助成金に関して伺いたかったのは、地元の大企業さんなどからの寄付。なかなか青パトとなると、ガソリン代が結構かかると思うので、そうなるやっばりお金が必要だなと思います。いろんな場所で話を聞くと、例えば地元の少し大きい企業から月10,000円ぐらい寄付してもらっているという地域があるみたいなので、もしそういった企業さんがあれば協力していただくと活動がやりやすくなるかなと思いました。

松野小学校スクールガード（岩手県）

岩手県の八幡平市立松野小学校校長高橋邦彦と申します。よろしくお願ひします。これからスクールガードの活動を通して見守りで安全安心な地域づくりについて発表します。

はじめに市の紹介です。八幡平市は岩手県北部に位置し、岩手山、八幡平安比高原、七時雨山の裾野に広がる大自然に恵まれた地域で、実りと光の大地を市民憲章の前文に掲げ、農業と観光の町です。



盛岡市近郊の町ですので、盛岡市方面に通勤する家庭が多いです。私たちが活動する八幡平市立松野小学校学区は、八幡平市松野地区の東北部に位置し南に岩手山を仰ぎ、西に八幡平国立公園を見ることができます。交通面では学区内に東北自動車道松尾八幡平インターチェンジがあり、安比高原や八幡平国立公園への観光客をはじめ、他県他地域から多くの人々が来ています。ここが安比スキー場に当たります。こちら側に八幡平、国立公園そして南側に岩手山ということになります。学区にはここに JR 花輪線がありますが、3 駅があり小学校区に 3 つの駅があるくらい大変広く、学区内でも天気が変わるといふくらいの広さの学校です。

小学校付近には、郵便局、消防署、駐在所と各機関が集中しており、平成 26 年には八幡平市役所の新庁舎が建設され、翌 27 年には市役所に併設する形で、JR 花輪線北森駅が移転されるなど、八幡平市松尾地区の中心的な地域となっています。なお、松野小学校の児童数は 83 人とあり

ますが現在は 84 人で、多くはないものの学区は広範囲であり、2本のスクールバスが朝夕運行されています。



2 団体の概要

発 足 : 平成30年8月

人 員 : 27名 (男性16名、女性11名)
平均年齢 約68歳

団体の概要を説明します。松野小学校スクールガードは、平成30年に発足した新しい組織です。発足以前には、PTA指導部が当番制で見守り活動を行っていた時期もありましたが、車で送迎の児童が増えたことや児童数の減少もあり、継続した活動が難しくなり自然消滅していました。

☆ スクールガード発足までの流れ ☆

○発足前の見守り

小学校PTA指導部が、当番制で見守り活動を展開



体制の確保が困難



自然消滅

○不審者事案の発生

平成30年5月

下校中の児童が不審者に声をかけられる事案発生！！



地域における児童の安全を守る気運の高揚

○スクールガード発足へ

① スクールガードの発足に向けた準備委員会の開催
(学校、自治会長、交通安全協会支部長等)

② 課題の解決 (予算の確保)

◎ 装備品(ベスト)の購入

⇒ 八幡平市からの補助

◎ 傷害保険への加入

⇒ PTA予算から捻出

③ メンバーの募集

自治会長の協力のもと、多くの地域住民の参加協力を得る



松野小学校スクールガード発足！！

【8月:始業式に合わせて発足式(紹介式)の開催】

★ 不審者事案の発生(5月)から、約3か月でのスピーディーな発足

そのような中、平成30年5月に学区内で、下校中の児童が不審者に声をかけられる事案が発生したことにより、地域の中で児童の安全を守る機運が高まりました。自治会長を中心としたスクールガードの発足を目指す準備委員会が開催されました。その後、八幡平市PTA、自治会の協力を得ながら、人員の募集、必要物品の購入、傷害保険の加入等を進め、同年8月2学期の始業式に合わせて松野小学校スクールガードの発足式(紹介式)を開催することができました。不審者事案が5月に発生してから約3か月でのスピーディーな発足となります。

これが紹介式の様子になります。当時平成30年度の人員は、男性17人、女性14人、合計31人です。平均年齢は約71歳でした。現在令和3年度の人員は、男性16名、女性11人、合計27人です。平均年齢は68歳で見守り活動をしています。平均年齢が下がったのは、高齢の方が活動できなくなって人数が若干減っていることが原因となっています。

～ 発足式(紹介式)の様子 ～



3 活動内容

(1) 登下校時の見守り活動

ア 自宅付近の通学路における見守り活動

各メンバーがそれぞれの自宅付近で児童を見守る活動

イ 小学校周辺における見守り活動

横断歩道、交差点、幹線道路等の交通上の危険箇所も併せた見守り活動

12

～ 登下校時の見守り活動の様子 ～



13

活動内容は、登下校時の見守り活動として、メンバーの皆さんに自宅付近の通学路における見守り活動や、学校周辺の危険箇所での見守りをお願いしています。登下校時の見守り活動の様子です。朝や帰りの挨拶や声掛けがあり、地域の大人の方との交流が小学生だけでなく、中学生、高校生とも行われています。

(2) 小学校との連携

ア 児童による下校予定時刻表の配布

各メンバーの近所に住む児童が、毎月の下校予定時刻表を直接配布（現在、27名のうち20名に児童が配布）

⇒ **スクールガードの方と児童のコミュニケーションの機会**

- ・ 児童は、安心感の向上と見守り活動に対する感謝の気持ち
- ・ スクールガードのモチベーションの向上

14

イ 学校行事への招待

- ・ 感謝祭への招待
4年生の農園作業のまとめとして開催される感謝祭において、児童と食事を共にする
- ・ 感謝の会
年度末(3月)に、全校生徒とスクールガードが対面し、児童から日頃の見守りに対する気持ちを表した「感謝のお手紙」をお渡しする
- ・ その他、各学校行事への招待・参加

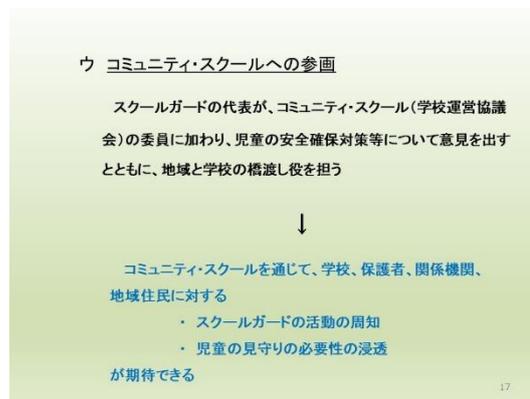
15

スクールガードの方と小学校との連携として、児童による下校予定時刻表の配布を行っています。これは各メンバーの近所に住む児童が、毎月の下校予定時刻表を直接配布することです。現在は、スクールガードの方27人のうち20人に児童が配布しています。スクールガードの方と児童のコミュニケーションの機会となり、また児童は安心感の向上と見守り活動に対する感謝の気持ちを持つこと、スクールガードの方は、モチベーションの向上が期待できます。

連携の2つ目としては、学校行事への招待があります。4年生の農園作業のまとめとして開催される感謝祭において、スクールガードの皆様を招待し児童と食事を共にします。昨年度は実施しましたが、現在感染症拡大の状況において、今年実施出来るかは大変心配しているところです。

また、年度末の3月に全校児童とスクールガードの方が対面し、児童から日頃の見守りに対する

気持ちを伝える感謝の会があります。感謝の言葉や感謝のお手紙をお渡しし交流します。さらにその他に、学校行事へ招待し参加していただいています。



これは4年生との会食会、年度末の感謝の会の様子です。学校では児童も教職員も年々入れ替わっていきますので、毎年スクールガードの方へ感謝の気持ちを伝えること、交流することを大切にしています。

八幡平市には全ての小中学校が、コミュニティスクール（学校運営協議会が設置されている学校）となっています。スクールガードの代表が学校運営協議会の委員に加わり、児童の安全確保対策等について意見を出すとともに、地域と学校の橋渡し役をお願いしています。また、コミュニティスクールを通して、学校、保護者、関係機関、地域住民に対するスクールガードの活動の周知や児童の見守りの必要性の浸透が期待できます。

(3) 「ながら見守り」の実践と啓発活動

スクールガード活動時に着用するベストを、

- ・ 散歩をしながら
- ・ 農作業をしながら
- ・ 近所へ出掛けながら

着用することにより、ながら見守りを実践。

「ながら見守り」の姿を見せることで、地域住民に対する啓発効果を期待！

18

(4) 研修会の開催

- ・ 活動における留意点や必要な情報の共有
- ・ 冬期間の活動について
- ・ 警察から活動に対する助言

19

先ほどの発表にもありましたが、本校の活動でもスクールガードの方の行う見守り活動の中で、ながら見守りの実践を行っています。これは、スクールガード活動時に着用するベストを、散歩しながら、農作業をしながら、また近所に出かけながら着用することにより、見守りを実践することになります。下校時間は低学年は3時頃から、高学年は4時頃からと2時間以上の間があります。登校と違い長い時間ですので、黄色いベストを着て地域を歩いていただくことが、ながら見守りの姿を見せることとなり、保護者、児童の安心と、地域住民に対する啓発効果も期待しています。

学校では研修会の開催も行っています。令和元年度までは、活動における留意点や必要な情報の共有、冬期間の活動について、さらに警察署の方を講師に、警察から活動に対する助言をいただく場を設けました。ただし令和2年度、今年度は、コロナ禍でこういう会は中止しているところです。ぜひ来年度は開きたいと思っているところであります。

4 活動頻度

小学校の全登校日

= 年間約200日

20

☆ 活動の成果 ☆

- ・ 不審者事案が発生していない
- ・ 交通事故が発生していない
- ・ 児童と地域住民の関わりの増加
- ・ 児童の挨拶態度の向上

21

活動は、小学校の全登校日数、年間約 200 日になります。雨の日や風の強い日、冬の寒い日も取り組んでいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

活動の成果としては、スクールガードが 30 年度に発足してから、不審者事案、交通事故が発生していないことや、さらに児童と地域住民の関わりの増加、児童の挨拶態度の向上が挙げられます。この他に通学路だけでなく、地域の危険箇所や横断歩道、ミラー設置の要望の選定等、いろんな場面で御意見をいただき、協力をいただいています。

課題としては、これも先ほどありましたが、メンバーの高齢化です。現在の平均年齢は 68 歳であり、高齢化が進んでいること、スクールバスの集合場所の全てで、見守り態勢が整っていないことが課題です。メンバーの数としては本校の割合でいえば大変多いと感じてはいますが、学区が広いこと、スクールバスの集合場所等、いろいろ広さを考えるとまだまだ足りないというのが周りの地域、保護者からの声があります。

5 課題

(1) メンバーの高齢化

- ・ 現在の平均年齢68歳
- ・ 平成30年の発足以来、メンバーの入れ替えが少ない

(2) スクールバス集合場所の見守り体制の強化

- ・ スクールバスの集合場所は、2路線、6カ所
- ・ 6カ所全ての見守り体制が確保されていない

6 課題の解決に向けた取組方策

(1) 無理のない活動の継続

高齢化社会の中で、メンバーの高齢化は致し方ない部分もある。

これまで同様、負担を最小限とし、活動を長く続けてもらうよう児童との交流等によりモチベーションの維持にも配慮する。

23

(2) コミュニティ・スクール等との連携強化

コミュニティ・スクール、自治会等との連携を強化しながら、スクールガードの活動内容や児童の見守りの重要性を地域に波及させ、次世代メンバーの発掘を狙う。

(3) 見守り場所に応じた個別のアプローチ

見守り体制が整っていない場所に対する措置として、自治会等に協力を求めながら、当該場所で活動してもらえ方を個別に選定、協力依頼していく。

24

課題の解決に向けた取組として、無理のない活動の継続のために、これまで同様、負担を最小限とすること、活動を長く続けてもらうよう児童との交流等により、モチベーションの維持にも配慮することです。今年の4月に見守り活動を行っている方に「寒い中、毎日ありがとうございます」と声をかけたところ、「何も大変なことはないよ。毎日子供たちから元気をもらっています」という声を聞くことができました。改めて人と人との関わりの大切さを教えられた思いと、感謝の気持ちでいっぱいです。

次に課題解決の取り組みとして、コミュニティスクールとの連携強化です。コミュニティスクール、自治会等との連携を強化しながら、スクールガードの活動内容や児童の見守りの重要性を地域に波及させ、次世代メンバーの発掘をねらいます。また見守り態勢が整っていない場所に対する措置として、自治会等に協力を求めながら活動してもらえ方を個別に選定、協力依頼をしていきます。本校の特徴として1つあるのは、いろんな次年度の役員選定に当たって、大概の学校は1月2月に行っていますが、本校の場合は11月から始まります。12月前に大体の目途を立ててということで進めています。見守り活動スクールガードの方も11月頃からお願いし、人数の確定をしているところで、さらに1月2月に足りないところで自治会とかにお願いしていくという形で、出来るだけ人数の確保に務めるように努力しています。

これらの課題解決の取組から、地域に根差したスクールガードの活動、そして見守りで安心安全な地域づくりに貢献していきたいと思えます。

最後に今年度懇談会のアンケートで、4年生の保護者が書かれた内容を紹介します。「スクールガードさんの暖かい活動により、子供たちの安全が守られているのはもちろん、私たち保護者も安心して子供たちを学校に送り出すことができます。スクールガードさんには感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございます」というアンケートの言葉を1人だけではなく何名からもいただいています。以上で発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

25

講 評

荒井 ありがとうございます。大変興味深く拝見しました。まず第1印象として学区が大変広いと、見守りの拠点はスクールバスの発着する場所に見守りの方がいるというイメージですよね。広い地域を守るというのは、結構やっぱり難しく人手も必要だし、的を絞ってやる必要があるの、その場合発着の拠点は網羅して見守りを強化したほうが良いというのはそうだと思います。なかなか団体の方だけだと難しいと思うので、可能であればPTAのお父さんお母さん、朝だけでもという形で協力をしていただくのもありなのかなと思います。特に、松野小学校スクールガードさんは、学校との連携がとっても緊密なので、PTAも協力しやすいんじゃないかと思ったりもするので、その辺を活用されると良いのかなと思いました。

なかなかこれほど学校と一緒にやっているとのはあまり見ないような気がするので、他の団体の参考になるんじゃないかなと思いました。以上ありがとうございました。

三小学区防犯パトロール隊（青森県）

皆様こんにちは。青森県十和田市からまいりました三小学区防犯パトロール隊の代表を務めさせていただきます。佐藤やえと申します。



地域の子どもは
地域で育てよう

三小学区防犯パトロール隊
(青森県)



本活動地域を御紹介いたします。本団体の活動地域は、青森県十和田市の中心に位置しております。令和3年5月現在、41町内会、4,645世帯を有する地域でございます。生徒数は520人でございます。十和田市は観光地として十和田湖と奥入瀬溪流が有名でございますが、近年では十和田現代美術館を中心として、アートの町として多くの方が訪れます。こちらを少し御説明いたします。一番左側がフラワーホープ、こちらが十和田は土、水がとても綺麗なところなので、野菜がとても豊富に取れます。これが十和田ファミリスと言いまして、ゴボウ、ネギ、ニンニク、長芋の名産地として全国的に有名でございます。そしてそちらが十和田市道百選に選ばれております、官庁街通りでございます。こちらは、松の木165本、桜156本が、2キロにわたり並んでおります。桜の季節はとっても綺麗でございます。こちらが奥入瀬溪流です。こちらが大町桂月がとっても好きな所でございます。晩年十和田市の蕨温泉で生活しております。以上が十和田市の紹介です。

団体の概要

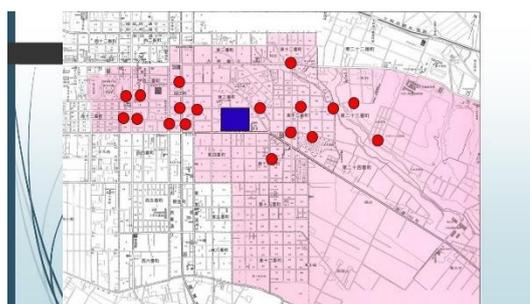
- 平成19年9月に設立
- 世帯数4,645戸 (令和3年4月現在)
- 協力している団体
 - ・十和田警察署
 - ・三小学区青少年健全育成協議会
 - ・東地区民生委員児童委員協議会
 - ・十和田市交通安全母の会
 - ・ちゃりんこショップパトロール隊
 - ・学校あいさつ運動協力員

活動内容と活動頻度

※画像を加工しているために見えづらい部分があります

団体の概要を御説明いたします。平成19年9月19日に、三小学区防犯パトロール隊を設立いたしました。この組織を支える関係団体として、十和田警察署、三小学区青少年育成協議会、東地区民生委員児童委員協議会、十和田市交通安全母の会、ちゃりんこショップパトロール隊、こちらが先ほども青パトのお話をされていましたが、自転車屋さんがパトロール隊を5台持っています。そ

して、学校あいさつ運動協力員の皆さんで、活動を行っております。



活動頻度として、防犯パトロール、緊急パトロールを御説明いたします。防犯パトロールは、毎月第1第3月曜日と長期休業の前後に、1年生と2年生の下校見守り活動を4月から翌3月末まで1年中行っております。そして、十和田市は賽の目のように道路がなっておりますので、その賽の目を4班に分けて、1年生と2年生の子供たちが自宅に向かうのをみんなで見守りしております。そして緊急パトロールは学校から要請があった時、必要に応じて防犯パトを出動します。昨年は声掛け事案が5回ございましたので、その時はパトロール隊も出まして、子供たちの見守りをいたしました。次に挨拶運動です。こちらも毎月第1第3月曜日と長期休業の前後に、地区内で19カ所に立って子供たちに挨拶運動を4月から12月末まで行っております。



学校への協力①新入生下校指導。毎年4月、新1年生の下校見守りを、1週間程度行っております。

学校への協力②低学年交通安全教室。こちらが1年生と2年生の交通安全教室で4月上旬にお手伝いしております。学校の近くに交差点がございますので、そこを1年生と2年生の子供たちと一緒に、パトロール隊が信号の渡り方、横断歩道の渡り方をお手伝いしている様子がございます。

学校への協力③朝の「右折自粛タイム」周知活動。三小通りはとても交通の渋滞が激しいところがございますので、渋滞を防ぐために左折で入るように、保護者の方をお願いしている状態です。こちらが、終わった後に挨拶運動を子供たちと一緒に行っておりますので、子供たちに今日はどうしていっぱい立っているのかという説明をして、PTA 会長が「車が混むのできちんと歩いてく

るか、おうちの人に左折で入るように伝えてくださいね」と説明しているところでございます。



心を育む世代間交流の1つとして、1年生と昔あそびをしているところです。1年生とあや取り、お手玉、竹馬等、9種類の昔あそびをしながら、交流をしているところでございます。

次に、もちつき会を毎年行っております。昨年はコロナのためにできなかったんですが、すぐ近くに北里大学がございますので、その学生がボランティアとして一緒に来てレクリエーションをしたりもちつきをしたりする、そして必ず警察の方が防犯について講話をしていただいている様子でございます。



こちらも同じく心を育む世代間交流で、卒業生に鍋っこ団子のプレゼントです。昨年コロナのためにもちつきができなかったので、一生懸命挨拶運動をお手伝いする6年生へ、十和田では有名な鍋っこ団子、またはへっちょこ団子というものを、卒業式の朝7時に行きまして卒業式が終わった時に子供たちにプレゼントしている様子でございます。

次に、昔ばなしとラジオ体操です。こちらは30年続けております。他からお話をしてくれる方を呼び出して、紙芝居や絵本を子供たちに読み聞かせいただいて、そのあとラジオ体操をしているところです。学校をお借りして活動を行っております。



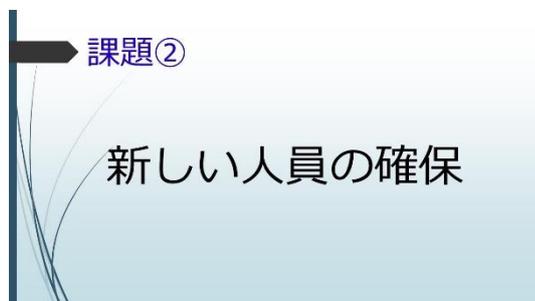
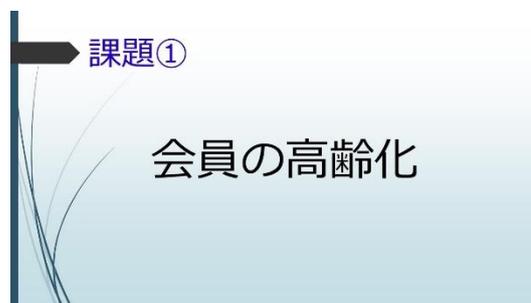
やはり私達の地域も人口が少なくなるということでコミュニティ化になりまして、これが1回目の「あれこれ発表会」ということで、地域の芸能達人な方が披露したり、中学校の子供たちが幼稚園の子たちと踊ってくれたりしました。一番左側は、三本木小学校の先生方がパプリカを踊っている様子でございます。

心を育む世代間交流として五つ目、コロナウイルス感染予防俳句大会。こちらはラジオ体操もできなかったのもので、子供たちに何かやってほしいということで、ウイルスについての俳句を募集いたしました。最優秀賞の作品ですが「おりひめも ひこ星のため マスクする」というとても子供らしい俳句がきました。そしてもう2つかわいいのでお知らせしたいと思います。「流れ星 コロナを去って お願いよ」「雷も 3密防げと 怒っている」という作品を頂きました。



地域とつながる校区間交流、交流挨拶運動です。こちらが近隣の6小学校中学校に出向いて、子供たちと一緒に挨拶運動をしている様子でございます。違う学校の私たちみたいな父兄が行っても、子供たちが「こんにちは」「こんにちは」と声をかけてくれるので、朝早く大変ですけれど心がほっこりするような思いの挨拶運動を行っております。月曜日から8カ所の学校にこれから回っていく予定です。

日本一を目指してということで、市内の8校の学校を集め発表会を行っているところでございます。その中に「ふるさと力日本一」「やさしい挨拶運動日本一」「俳句日本一」と、その学校独自の目的を作りまして発表している様子をお子様と一緒に見ている様子です。大体300人ぐらい集まってお互いの子供たちが発表するのを楽しんでいる様子の写真でございます。



課題として会員の高齢化です。現在、当パトロール隊の会員の多くは、60歳代から80歳代であります。若年層の人材確保が急がれております。

課題2として新しい人材の確保です。熱意のある会員が毎日登録してくれる状況ですが、裏を返すと新しい人材が確保できないような状況になっております。

課題解決に向けた取組方針

課題解決に向けた方策①

楽しく・取り組みやすく

課題解決に向けた方策 1、楽しく取り組みやすい活動の仕方の工夫。挨拶運動や防犯パトロールなど自家用車のない高齢者でも参加出来るように、学校周辺に集まってする活動から各自の自宅付近での活動に変更した結果、地域の広範囲を見守ることが出来るようになったとともに、活動の広報とつながっております。こちらが 19 か所の挨拶運動と同じくやっているところです。ナイフを持って市内を走っているという事件がございまして、その時に子供たちの登校時間でございましたので、挨拶運動の方に各自宅前に集まってほしいという私の電話で、すぐに皆さんが 19 か所に立ってくれました。他のところでもございましたが、やっぱり自宅付近にも立って挨拶をしたり見守るといのがすごく大事ななというのを実感しておる次第でございます。

課題解決に向けた方策②

前向きに・継続して

課題解決に向けた方策③

積極的な P R

課題解決に向けた方策 2、前向きに・継続して。各種活動において、小学校 PTA、地域、大学生など含め、反応の多い少ないは気にかけず呼びかけることを続けております。そして協力して下さった若年層には感謝を述べ活動を理解してもらいながら、地道にこつこつつながりを深めております。

課題解決に向けた方策 3、積極的な P R 活動。活動ユニフォームや横断幕などを作成し、地域住民の目に留まるようにしております。また警察や市の関係機関等に積極的に働きかけたり、学校便りや地域広報誌などに取り上げてもらったりしながら、活動 P R を行って新しい人材を確保出来るようにしたいと思っております。



ご静聴ありがとうございました

最後になりますが、当防犯パトロールの目的でございます、子供が犯罪、交通事故等に巻き込まれることがなく、安全に安心して登下校出来る地域づくりを目指して、これからも、家庭、学校、地

域住民、警察、関係機関との連携をとりながら、こつこつ邁進したいと思っております。この14年間、防犯パトロール隊の皆さん警察の方のたくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございます。また今日いらしている教頭先生も、今日初めて来られたのに、この書類を作るために一所懸命尽力をしていただいて、本当にありがとうございます。これからもこつこつと頑張りますので、よろしくお願ひします。これで終わります。ご静聴ありがとうございました。

講評

荒井 資料を拝見させていただき発表を聞かせていただいて、とても楽しそうだなというのが第一印象です。楽しいということが大事ですね。つらいことはやりたくないですね。楽しくやれるというのはとってもいいことだと思いますし、三小学区防犯パトロール隊の強みじゃないかなと思います。特に防犯ボランティアだけではなくて、伝統の継承や地域の連帯感を強めるようないろんな活動があるというのは、とてもいいことだと思いますし、さらに新しいコロナに関連する俳句の会だったり、新しい活動を積極的に考案している点で、とっても素晴らしいなと思いました。やっぱり活動は楽しい方がいいですから、いろんなことをやりつつ、その中の1つとして見守り活動があるというような形で、今後も継続していただけるといいんじゃないかなと思いました。もう1つは大学が近くにあるんですね。

それはとても幸運なことで、僕も大学にいますけれど、大学生はボランティアをやりたい子が結構いるんですね。そういった人たちを掘り起こして活動に参加してもらうことで、若返りが十分出来るかなと思いますし、日本全国いろんな所でボランティアのフォーラムに参加させていただいて、やっぱり大学が近くにある団体さんは、大学生を引き込んでいるんですね。それが1つのモデルになるんじゃないかなと思いますので、ぜひ積極的にPRしていただきたいです。大学生を取り込んでやっていただけると若返りもできますし、世代は変わってきますけど大学生ずっといますから、原動力になるんじゃないかと思います。

パトロール隊に入ってもらったり、防犯に参加してもらったりすると、もっといいサイクルができます。学生たちも先輩から後輩にという継承していくので、1回サイクルができればそのままずっとやっていけると思うので、1歩目のところを頑張って壁を崩していただきたい。

いきいき行動隊（北海道）

ご紹介いただきました、いきいき行動隊の前東と
います。

はじめにお断りですが、新型コロナウイルス感染症防止の
ために2年間以上変則的に縮小した活動となりました。従いまして、ここに紹介いたします写真、内容
などは元年以前のものが多くっております。御了
解ください。それでは説明に入ります。



北海道・東北ブロック

『安全・安心フォーラム』

いきいき行動隊

北海道江別市 前東 昭

日時 令和3年7月10日 午後1時30分～
場所 フォーラムアキタ



この写真は、対雁小学校という校区ですが、会場を中心に地域の多様な団体が主催する「わくわくふれあい祭り」というものの中で、私どもいきいき行動隊が開設した昔遊びコーナーです。その時に高校生とか大学生とか一般の方とか、グリーンのTシャツを着ているのは警察官ですが、いろんな方々が集まったときの記念写真でございます。

さて、江別市は人口 120,000 人。農業、商業を基幹産業として発展しておりまして、札幌市から家並みが続いています。通勤に 20 分～25 分ぐらいで行き来出来るという距離のベッドタウン化しております。私たちが活用する小学校校区は、高齢化による人口減少が進む見晴台地域、それから子育て世代が住んでいる新栄台地区の2つで、全く違った人口構成といいたししょうか、内容が違う地域で構成されております。世帯数は 3,500 前後、人口 8,700～8,800、児童数 645 人となっております。私たちがいきいき行動隊は、こういった状況の中で活動の基本を子供たちの見守り、交通安全、防犯を目的としておりますけれども、福祉活動や環境整備などさまざまな活動を通じて住民と一緒に活動出来ることに力を注いでいるつもりでございます。

いきいき行動隊モットー

出来るときに、出来る人が、
出来ることを行う。

活動における配慮

- 1 活動に必要な資金は隊員負担
- 2 積極的な協働活動

働き掛けによるコミュニケーション

対雁 小学校	P T A	見晴台 自治会	新栄台東 自治会	新栄台西 自治会	青少年 サークル	高校生・ 大学生
教育 委員会	江別 市役所 各課各係	近隣 企業	個人 商店	ボラン ティア 団体	警察署	防犯協 会

相互補完による協働活動

いきいき行動隊の活動のモットーは、「出来るときに、出来る人が、出来ることを行う。」ということとしております。これはお金や人に縛られずに強制されずに隊員が負担を感じることなく、隊の

目的に合った自由な活動が出来るようにという発想から、このようなことにしております。基本的には活動資金は隊員が負担しております。ただ、自治会、町内会でやるようなこともやっているから若干応援するよということで支援をいただいておりますが、それは隊員の傷害保険程度の金額でございます。その他に月に1度例会を夜間にやっております、いわゆる町内会館の印刷機などは無料ですが、その他消耗品は全部私どもの負担ということでやらせてもらっております。

活動の柱は、多様な団体・機関及び異年齢の積極的な働きかけを行って、コミュニケーションを図りながら活動を進めるということにしております。

私たちが働きかけて一緒にやっているいろんな団体は、ここにありますように本当に多様でたくさんございます。このほかにもまだまだありますけれども、それぞれ目的、規模、組織など当然性格も違うわけでございます。私たちのような自由で制約を受けていない団体や機関はほとんどありません。従いまして、異質な組織に働きかけて協働をしようということに至るまでには大変苦労があるわけですが、部分的にお互いに協力し合い補完し合って、実績を地味ながらも積み上げていくということで成立するといひましようか、活動が充実していくといひましようか、そういったことにつながっております。全く違った組織に働きかけることですから、私どもの学ぶことはたくさんございます。

関係機関・団体・自主ボランティアとの活動事例項目
平成17年～令和2年の間

- ・各種研修に参加・資料等収集し活動に反映・ほくどくん防犯メール登録
- ・自治会、小学校と連携強化
- ・通学路点検、排雪、砂撒き、登下校安全指導、下校後の見守り
- ・屋根、樹木の落雪チェック・昼夜間防犯交通安全パトロール見守り
- ・小学校アクションプログラム参加・昔遊び活動支援
- ・街灯チェック・公園遊具安全点検・公園トイレ照明点検
- ・公園遊具周り空き地の積雪危険箇所見回り除去・地域交通安全点検
- ・放置自転車処理・ゴミステーション整理清掃・違法迷惑駐車対応
- ・集団下校協力・ストップマーク貼付・子ども110番の家訪問協力依頼
- ・不法投棄処理・スズメバチ被害防止・カラス被害防止

- ・企業へ環境整備協力・青色回転灯パトロール
- ・校区内人身事故発生、不審者出没拡大地図作成
- ・不審者出没時の緊急支援活動
- ・安全安心どさんご運動参加・子ども達を守るうステッカー貼付
- ・ポスター配布揭示要請・東日本大震災ボランティア体験児童に紹介
- ・中学校学校祭壁新聞で活動内容紹介
- ・江別共助ネットワーク参加活動(研修会、徘徊者捜索、ケアラズー支援)
- ・オレンジラン参加・防犯協会主催啓発活動
- ・情報大ゼミ小麦マルシェ発表
- ・江別、野幌高校ボランティアクラブ員、青少年サークル員と防犯、昔遊び等協働活動
- ・三世代餅つき大会・昔遊びコーナー設置
- ・放課後児童クラブ防犯公園清掃

多くの活動項目を挙げていますが、非常に活字ばかりで見にくくて申し訳ございません。理解できないことも書いてあるかもしれませんが、後ほど数点について御説明申し上げます。こういったところと協働でやりますと、皆さん方も課題として挙げておりましたけども、会員の高齢化、後継者不足というふうな課題が見えてきました。そこで私たちは調整することで活動が充実し、結果として課題解決につながるのではないかというふうな考え方を、多くの課題がある中3つの課題に取り組みました。

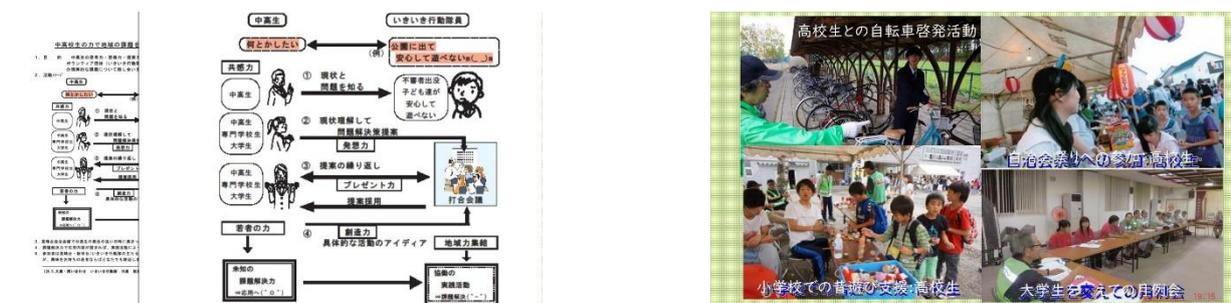
構成員の高齢化
活動のマンネリ化
住民意識の希薄化



高等学校を訪問しての意見交換

1つ目は、構成員の高齢化です。それから2つ目が活動のマンネリ化防止です。それから防犯に対する住民意識が希薄化ですので、意識を高めようということでございます。現在は少子高齢化、人口減少社会を迎えて、これまで以上に地域活性化のために若者の参加活動が必要とされています。このことを踏まえて、市内の2つの普通科高校に伺いまして、生徒会役員やボランティアクラブの

生徒たちと意見交換を行いました。その他に学校ではないですが、青少年サークルというのがあります。そういったものにもお邪魔しました。彼らに数年後に地域社会で中核的な役割になっていただかなければならない。現状では若者に地域が期待し、社会が乖離しているということを理解してもらうために、説明させてもらいました。高校生たちはそういったことは分かったけれども、どうやればいいのか？ということで真剣に聞いてくれました。しかし、その説明と意見交換の中からこんなことが出ました。高校生たちは「大人たちは、将来の少子高齢化や人口減少が到来し、今までに経験したことのない社会が出現すると以前から分かっていたことだろう。なのに、最近になって、若者の活動が必要だ、頑張れ、あなたたちはすぐに地域では中核的存在になるのだと。そんなことが分かっていたら何で今まで私たちにそう言ってくれなかったんだ。今になって言われても大変卑怯じゃないでしょうか」そういうふうなこと言われました。「そんな状況を招いたのは大人の責任だ」と。それを聞かされて、異年齢の割合の中で生きてきた私たち、交流が不足だったんだと思います。大きな反省として残っております。ここでは私たちが生活していく身近な地域で課題を見つけて問題を解決し、仲間と課題に向かって取り組む、そのことが将来共生の社会につながることを学ぶことが大切で、頼るのではなく共生するのが大切なんだよということを訴えました。

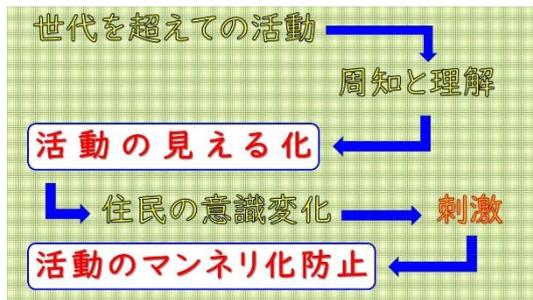


彼ら自身が活動をイメージしやすいように、ここにありますような資料提供しながら、地域の課題を解決するための話し合いを行いました。いろいろと理解しにくいことですが、その結果、活動への理解が深まり、生徒が主体となって学校祭には安心安全コーナーの設置や、校内では自転車盗難防止啓発活動、2ロックですね。郊外では街頭防犯啓発、通学路の清掃等々、行動として現れるようになりました。

上の左の写真は、今申し上げた自転車盗難被害防止活動、2ロックでございます。それから、2ロック啓発活動ですね。右は書いてありますように、自治会の祭りで高校生による昔遊びの交流です。左は対雁小学校で一緒になっての子供たちとの昔遊びでの交流です。そして右は、赤色を着ているのが高校生と大学生です。ずっと向こうで青少年サークルの大人です。青年です。そういった人たちと、いろんな意見交換をしました。若者からはユニークな発想というか、いろいろ飛び出してくるんですね、私たちが考えられないようなことが。例えば昔遊びですと「そんな古臭いことやってたんじゃだめだよ。今の子供だと長縄跳びがいいですよ。シャボン玉がいいですよ」シャボン玉は人の顔が入るのがありますよね。「水玉鉄砲がいいですよ」「何ですか？」と聞くと、ビニール袋の中に水を入れて、ぶつけて的に当たったらバシャッというやつですね。そんなことは考えもしなかったんですが、そんなことも言い出します。そういう打合せの中で、月例会の中で言われたことを取り入れるということを大切にしております。そして取り入れたものを「こうやって取り入れているからね」ということを伝えることがものすごく大事だなと思っています。月例会の参加についての制限や制約は全くありません。参加は自由です。母親と子供が参加したこともあります。他のボラ

ンティア団体の方も参加します。世代を超えての意見交換を行い、活動に反映するように心がけております。

現在、隊員は37人で構成されております。多い時には42人おりました。実質活動しているのは25名です。1年間に打ち合わせに1回来ても、「出来るときに、出来る人が、出来ることを」ということですから隊員としては離さないです。1年間全くという方には御遠慮いただくということがあります。現在隊員37人で構成されているのですが、先ほど申し上げましたように実質活動は25名です。活動を補完する他団体のボランティアは、イベントとして取り組む時に支援をお願いし、活動を進めております。



このような世代を超えての意見交換会や活動によって、地域住民に周知されるようになってきました。私たちはこのようなことを見える化と言っています。見える化を進めることによって活動が認知され、住民の意識に変化が見られ、それが隊員への励みとなって活動のマンネリ化防止にも役立っていると思っております。

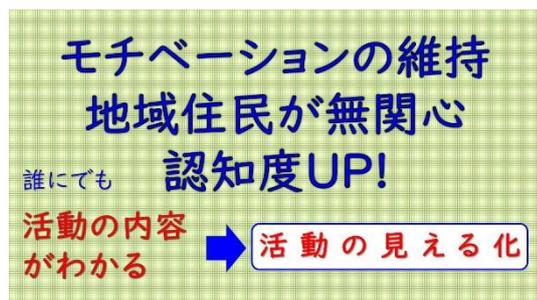
私たちは高校生、大学生、地域住民、特に組織されていない個人、及び少人数の自発的な活動が認知されていないんですね。それを地域社会が評価して、防犯が私事として気付き、自然と意識がその地域に定着することを願っているのです。非常に難しいことですが、そんなことを思っております。

課題の2つ目は、人材の確保による活動の活性化です。先も若干説明いたしました。いきいき行動隊の男性が22人女性15人の総勢37人です。その平均年齢は68.7歳。若者の後継者育成確保が大きな課題です。そこで、若者が活動している社会福祉ボランティア団体等に働きかけを行い、福祉施設で勤務している20歳代から40歳代の方に、私たちの活動の協働を提案しつつ、相互の理解を含め、互いにプラスになる活動内容を確認しました。

例えば、行方不明者の搜索。これは同保健所、地域、警察等々の了解も得た私どものグループが組織されています。若者は昼間勤務であり活動が忙しく難しい。私たち仕事を卒業していない人もおりますけれど、卒業した高齢者の者が昼間は搜索を行い、夜間は若者が担当するというように、お互いに補い合う活動を提案していることで理解を深めさせていただきました。この打ち合わせは、

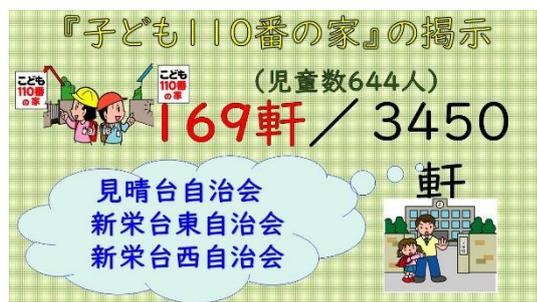
社会福祉協議会の会場を福祉団体の顔を借りて無料で18時～20時までという時間外です。

写真はご承知のように認知症啓発活動のオレンジラン。たすきをずっとつないでいろいろな施設を回り協働で地域でPRをする。多くの隊員が参加することで私たちの活動をアピールできました。たすきがけをしている人の右側で、手を左から出しているのが副市長です。後ろの黒いタイツで右膝が上がっているのが私です。不定期ですが活動に参加協力してくれる方もおり、登下校時の子供の見守り、夜間の定例会や当番活動にも参加してくれるようになりました。大変な理解を示してくれて、お互いに助け合ってやろうということでございます。



課題の3つ目は、モチベーションの維持が難しい。地域住民が無関心で認知度が低いということです。この課題を解決するため、隊員から住民からも活動が分かるように見える化を図り、それを積極的に進めてまいりました。

活動の見える化の具体的な事例の1つが、児童との交流です。前の団体の方も同じような素地があったかと思いますが、こういった交流は子供からもそうですけども、親も我が子ということがあって意識が強いですね。したがってこういうことが認知度の向上に効果があると思っております。学校で活動している校内のボランティア団体が他にあります。いわゆる学校行事などで行う昔遊び体験。協働ですね。それから放課後児童グループ、学童というのでしょうか。公園に出ていきます。そこへ私も出向いて、一緒になって公園を整理整頓し危なくない環境を作ってやる。そのことが見えるようにやるということであります。対雁学区は、郊外活動だけでもボランティア団体が複数あって、相互に協力し活動の充実化を図ることで、ボランティア活動が児童を通じて家庭へ地域へ伝えられ、認知度も向上するものと考えております。



次に子供110番の家のこととさせていただきます。これは掲示数を増やすことであるとと考えております。いきいき行動隊は関係機関と連携して、隔年ごとに110番の家を掲示している家を訪問しています。そして、趣旨を説明しながら、どんな状況があったと情報ももらいます。つけっ放しやりっ放しでは、全然効果が薄いです。その中で過去にさかのぼって調べてみましたが、私の知る限りでは緊急に助けを求めて飛び込んできた、駆け込んできたというのは、1件もありませんでした。町内会単位の班がありますよね。掲示数はその1つの班に1件程度を目安として協力を願っています。

現在3つの自治会、先程2つ見晴台と新栄台と言いました。新栄台が東と西があります。3,500軒中169軒付いております。これは、まだ目標に届いていませんけれども、住民の防犯意識の啓発となって大変な抑止力になっていると判断しております。個別訪問の結果分かったことは、保護者が急用の際に110番の家を頼って子供を預けたケースが複数件ありました。その他、これを掲げているということで信頼されるんですね。全く見ず知らずでもそこに行って子供が助けてもらったとか、けがしたのを治してもらったとか、夕飯をごちそうになったとか、鍵を落としたために家に入れないのでそこで待たせてもらったとか、いろんなことが出てきました。そんなことがきっかけで、家族同士のつき合いが始まって地域のコミュニケーション作りに役立っているということが分かりました。余談ですけども、何枚か全員の方にいいと思いますけれども、プリントが畳んで入っていますので、後でご覧になってください。

事例の3つ目は、通学路のストップマークです。これは全国にあるのでしょうか。横断歩道等の前に、左側にあるようなのが貼られていて、ここに来たら止まりなさいよ、右左右と。これがある所をずっと通ると通学路なんです。これを外れると正規の通学路ではないということになります。冬は雪が積もりますと使えません。雪を削ります。排雪しますね。削られてだめなんですね。それを張り替えます。市の交通指導員というのがありますが人数が少ないんです。町の外れからずうっと仕事の合間に貼っていくと、現在まだ今年貼られていませんが、雪国だと貼らないうちに…ということを書いて、貼らないなら効果がないので私どもが代わってやりましょうということで、一昨年までは私どもが続けてやりました。雪が溶けたら即貼りたい。そうすると11月の末まで有効に活用出来る。そして、1年生でも登下校の時にこれを見て通学路、右を見て左を見てということでも有効に活用出来るんですね。ところがいろんな都合から利用できなくなって貼らせてもらっておりません。

その他、どちらもそうですけれども、今の団体と通学路点検を総合的に行って、私どもの意見を出しているところでございます。



4つの事例ですけども、関係機関合同の昼夜の交通安全パトロールです。これは、警察の理解協力を得て、共催で実施しております。実際に自治会町内会に回覧します。「こうやってこうやってやるよ、この地域ではこんなことしています。それでこういうことやるよ。どなたでも構わないので、どうぞ参加してください」という回覧をしています。そして当日私どもの青パト3台、会員の車、2、3台、参加者によって増えたり減ったりしていますが、どなたが乗っても構わない、自由にどうぞということを行っています。マイクを握るのは大体中学生か高校生ということでやっております。一緒のところは降りて徒歩で見て、車上からマイクのスピーカーでというふうなことで活動しております。

その他、通学路の安全確保、公園などの危険箇所。雪ダマができてそこに落ち込んで死んだとい

う例もあつたりします。降雪期の信号機周辺への除雪、1回排雪をします。夜間にやります。ずっと降り続けています。登校する時に信号機周りが通れないです。手で押すところが雪の中に埋まっていることもあります。そういうところを私どもがやるということもあります。さらに、降雪期には信号機手前で待機する場所の安全確保に向けて、カラーコーンとカラーバーを置いて、車の進入を防いでおります。積雪しますと、ガードフェンスが見えないので、車が入っていいと思って入ってくるんですね。夏ですと入れないです。そういったこととございます。排雪、除雪の仕方の問題もあろうかと思ひます。それから積雪時の安全な登下校を確保するために、排雪機での作業が困難な通学路、信号機周辺を中心として、私たちが手作業で行っております。また、活動状況や施設の犯罪を地図化して自治会で回覧。公的な場所に置いて、自由に持って行ってもらひます。さらに、学校の手を借りて児童に持ち帰ってもらひて、家庭で話題になるように工夫をしております。

コロナ禍の中で...

単独パトロールの呼び掛け

月例全体会の実施

出来るときに、出来る人が、出来ることを

学校での清掃活動

接触を避け
たふれあい



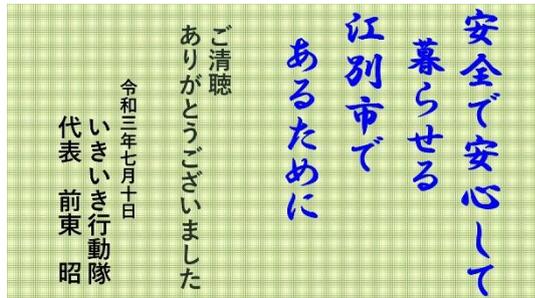
コロナ禍で感染防止に向けて、活動の自粛をせざるを得ませんでした。どちらの団体さんも同様だと思いますけれども、マイナス面ばかりが顕著に表れてきております。月例会が中止、児童生徒との交流中止、各団体との交流中止、関係会の出入りの自粛等々と数え切れません。自粛した活動というのは、単独での登下校の見守り、それから青パト等の児童の見守り、今8月末までということで、子供110番の家に訪問しての意見交換、情報交換をやらせてもらっております。

対面での感情を込めての交流がいかに大切かということ、このコロナで教えられたということがあります。「出来るときに、出来る人が、出来ることを」をモットーに活動を継続することがモチベーションの維持、さらには地域社会から認知度を高める結果となるのではないのでしょうか。

これは昨年の10月です。学校キレイキレイ隊といいます。私が後ろの左端に映っていますけれども、あの中にいきいき行動隊の女性が4人入っています。ここは避難施設になっています。体育館のトイレ、体育館の網ネット、ごみがものすごいんですね。子供たちは掃除できません。そこを私どもがやるんです。右下は子供をおぶったお母さんがやっています。キレイキレイ隊との協働活動です。

早口で説明不足もあり、御理解できないこともあつたかと思ひます。皆様の活動状態、本隊と同じように書かれていると思ひます。私たちも同じです。今までの途中では活動を中止したくなる、いきいき行動隊を解散したくなる等のこともございました。今まで説明したようなことで何とか乗り越えてきましたけれども、防犯活動は大変地味なものだと思ひます。活動を継続するためには、子供たちの成長を見ることも大切だと思ひます。例えば、交通安全では、指示待ち人間を育てない。子供の成長に合わせて、「青だから渡っていいよ」と誘導の旗を出すということではなくて、自分で安全を確認して自分の判断で自分の力で渡る、そういうふう成長していくことを願ってやっています。それを見るだけでも、大変私どもの励みになります。喜びになります。また行政の手の届かないところで地域社会の人が喜んでくれるようなことに手を出す。そのことで住民の感謝の

一言が大変な喜びになります。やりがいを見出します。さらには、防犯を離れて個人の多様な価値感や地域社会の変革を知ること、見学したり研修会をやったり食事会をやったり、いわゆる私も活動者の生活向上へのアクセントになると。終わりになりますけれども、住民との連帯感を強め、自分で感じ考える「気を付けよう」を身につけて、犯罪の起きない環境づくりを今後も継続してまいりたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。



講評

荒井 ありがとうございました。とってもいろんな活動をされていてすごいなと思いました。特になかなか団体によっては難しいところがあるのですが、世代を超えての意見交換とか若い世代の意見を積極的に取り入れて活動されていて、とても前向きでいいなと思いました。かつ意見を聞くだけではなくて、それを実際に実行しているというところまでやりきっているのが、特にすごいいいモデルになっているなと思いました。

それからもう1点これもコメントですけど、活動を見える化したり、積極的に広報するというのは、これはあまり他の団体さんで出てこなかったと思います。これはとても重要で、やっぱり地域の中でこういう活動をしているんだというのを積極的にいろんなところに知ってもらおうというのは、地域全体の防犯意識を高めるという点でもそうですし、あるいはいろんな団体さんで課題として挙げていた、資金をどう確保するかというところに直接的に関係してくる点があるので、とても重要じゃないかなと思います。こういう活動しているんですよということをまず認知してもらわないと、例えば市からお金がもらえないとか、いろんなところからお金が来ないということになってしまうので、やっているんだというのは、皆さん堂々と積極的に広報していただいたほうがいいんじゃないかなと思います。その意味でいきいき行動隊の事例は、とっても参考になるんじゃないかなと思いました。以上です。